

2014-11-4 イヌの肺

安全性 古田信道

提出機関: DIVET- School of Veterinary Medicine, Milano - Italy

症 例: スプリングースパニエル 幼齢 雌 イヌ

経 緯: 2014年2月に死体で発見された野犬、その後病理解剖に供す

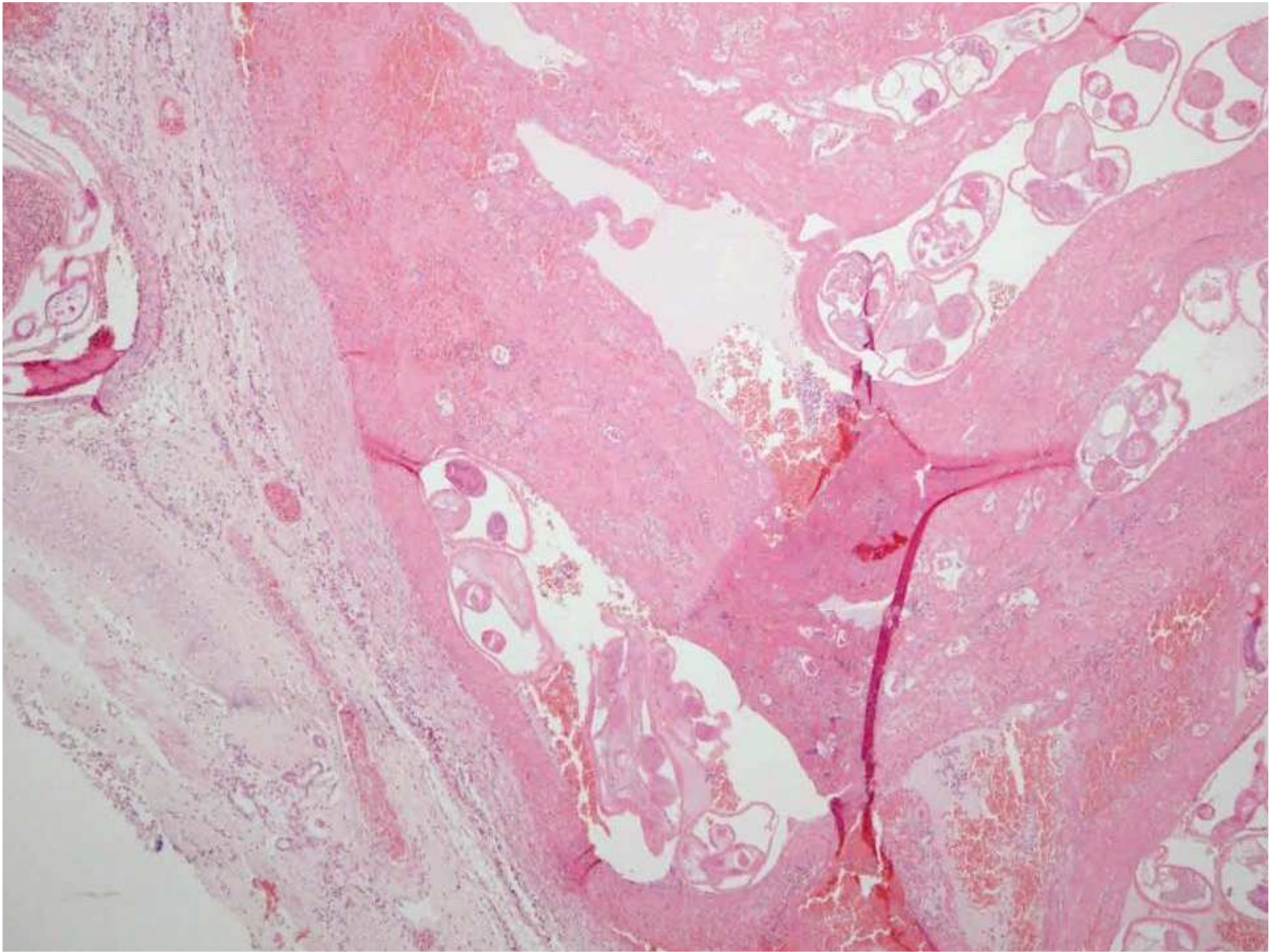
肉眼所見

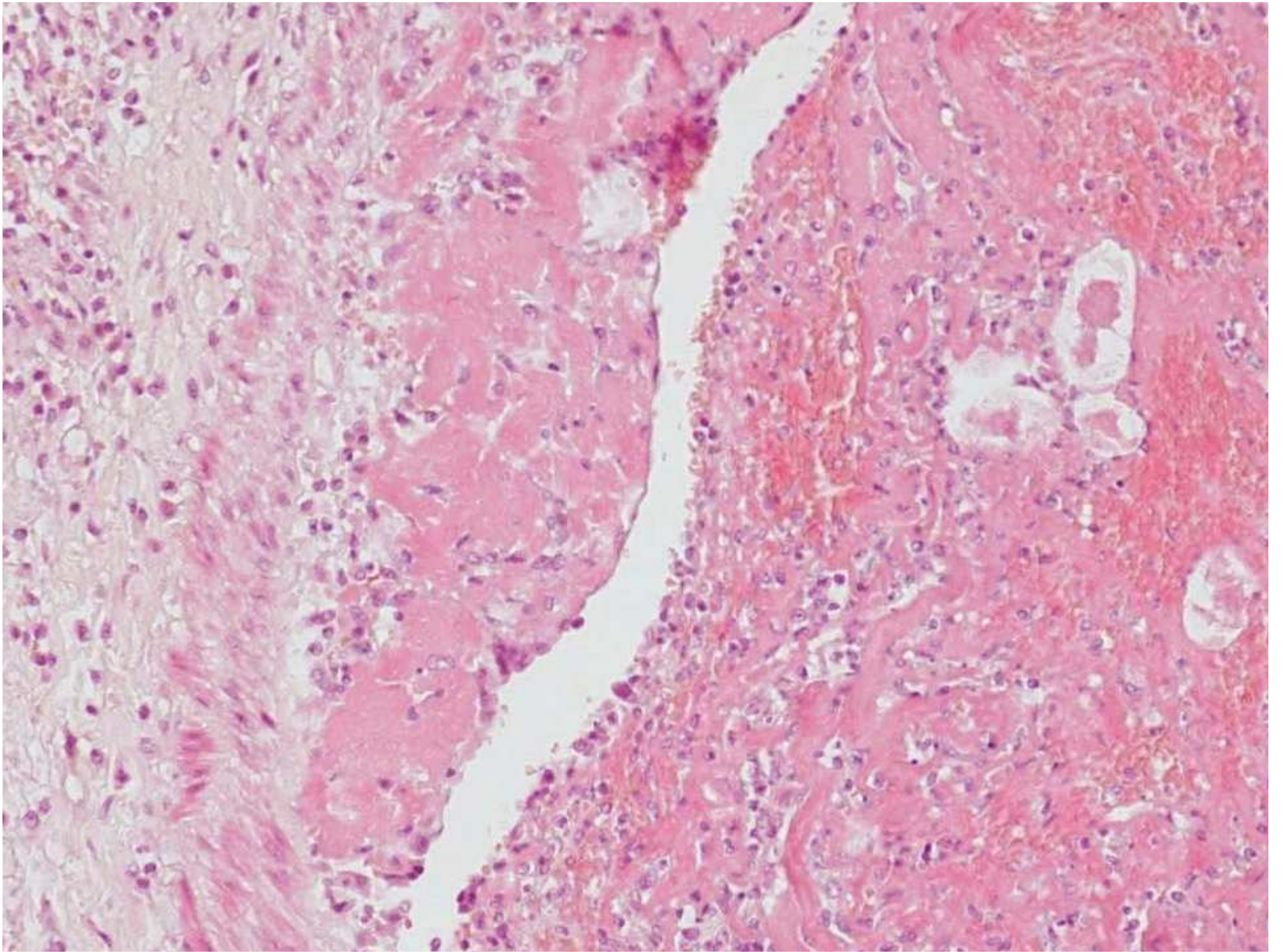
1. 可視粘膜 : 黄疸と著しい貧血
2. 肝臓 : 腫大し、高度な充血を伴い線維化
3. 腹部大動脈 : 一部に動脈瘤、黄疸
4. 胸腔 : 高度な縦隔気腫と気胸、中等度血胸
5. 心臓 : 軽度の心嚢水貯留、重度右心房室の拡張
6. 肺 : 重度の胸膜肥厚と線維性胸膜炎
重度の肺水腫と線維性壊死性肺炎
多発性融解壊死及び壊疽性肺炎

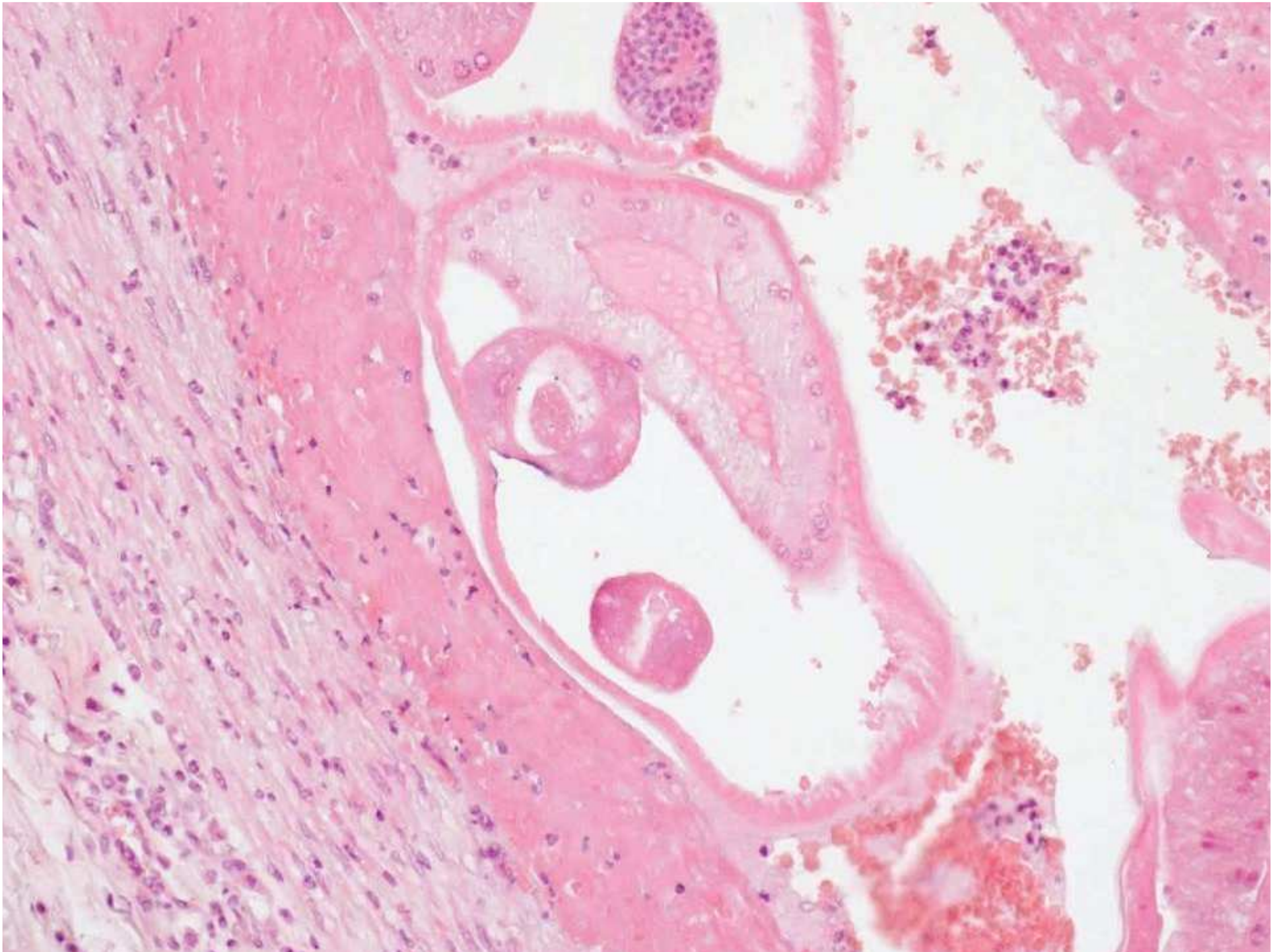
検査成績: 肺から *Angiostrongylus vasorum* を検出

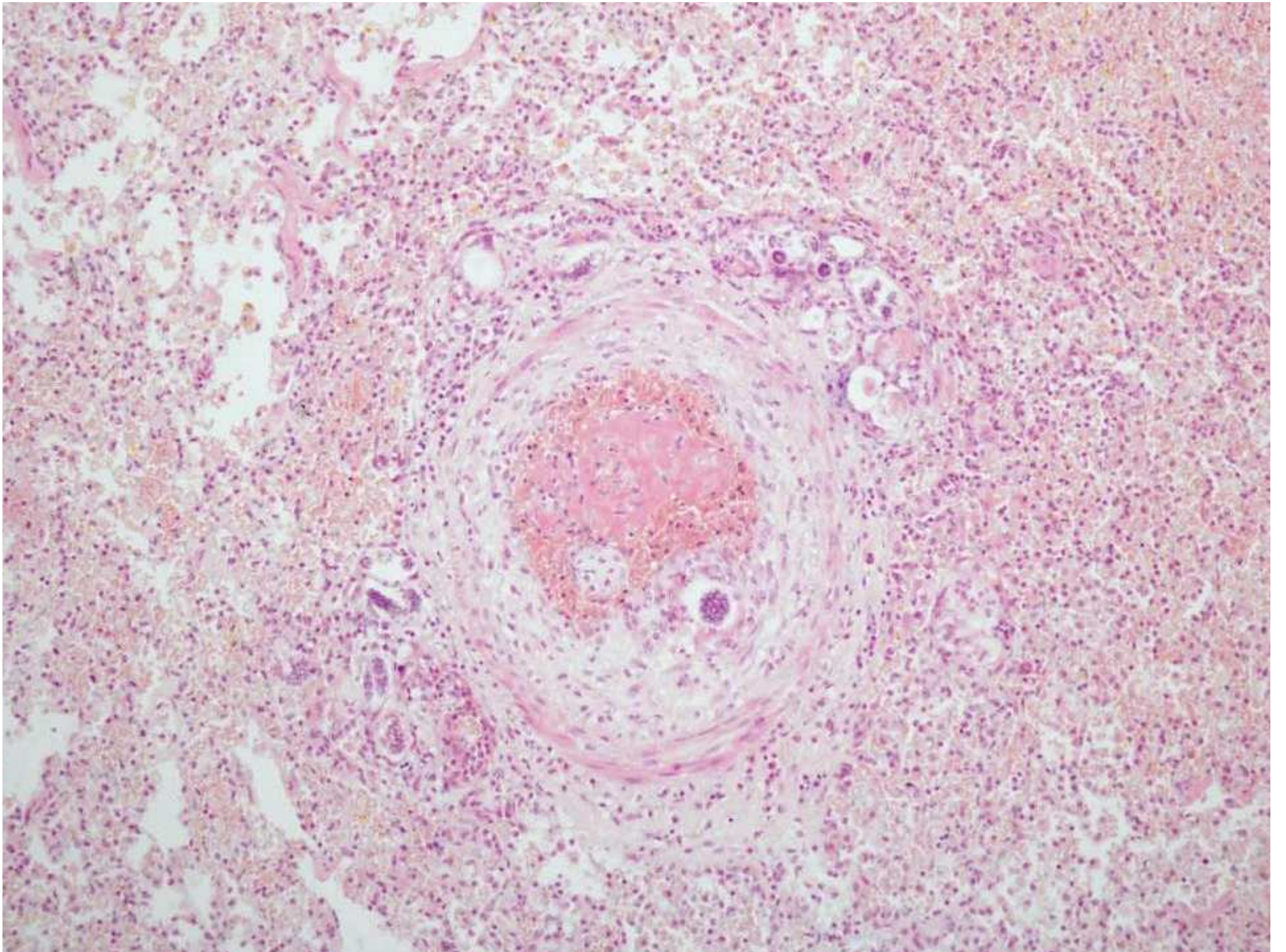


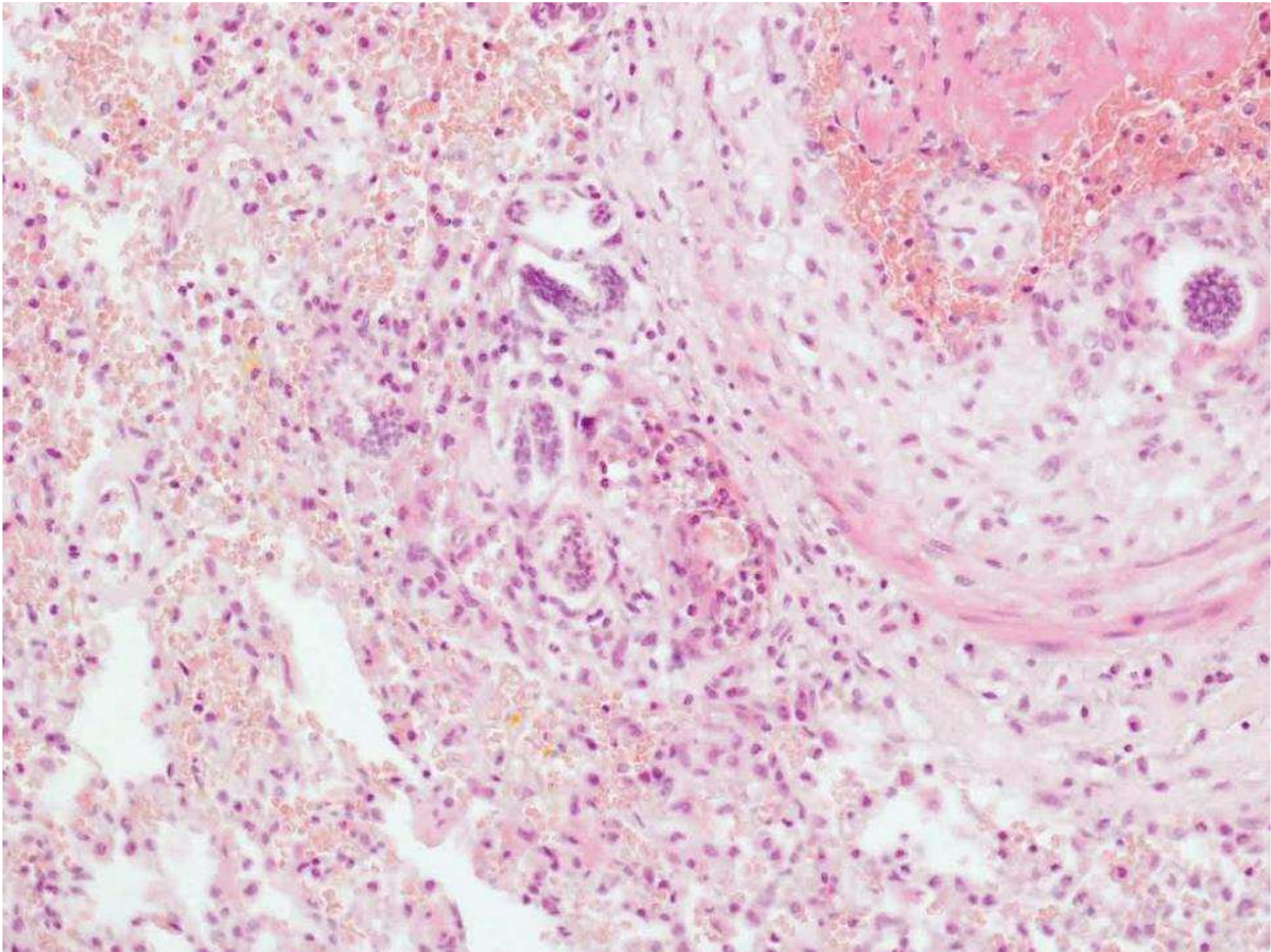


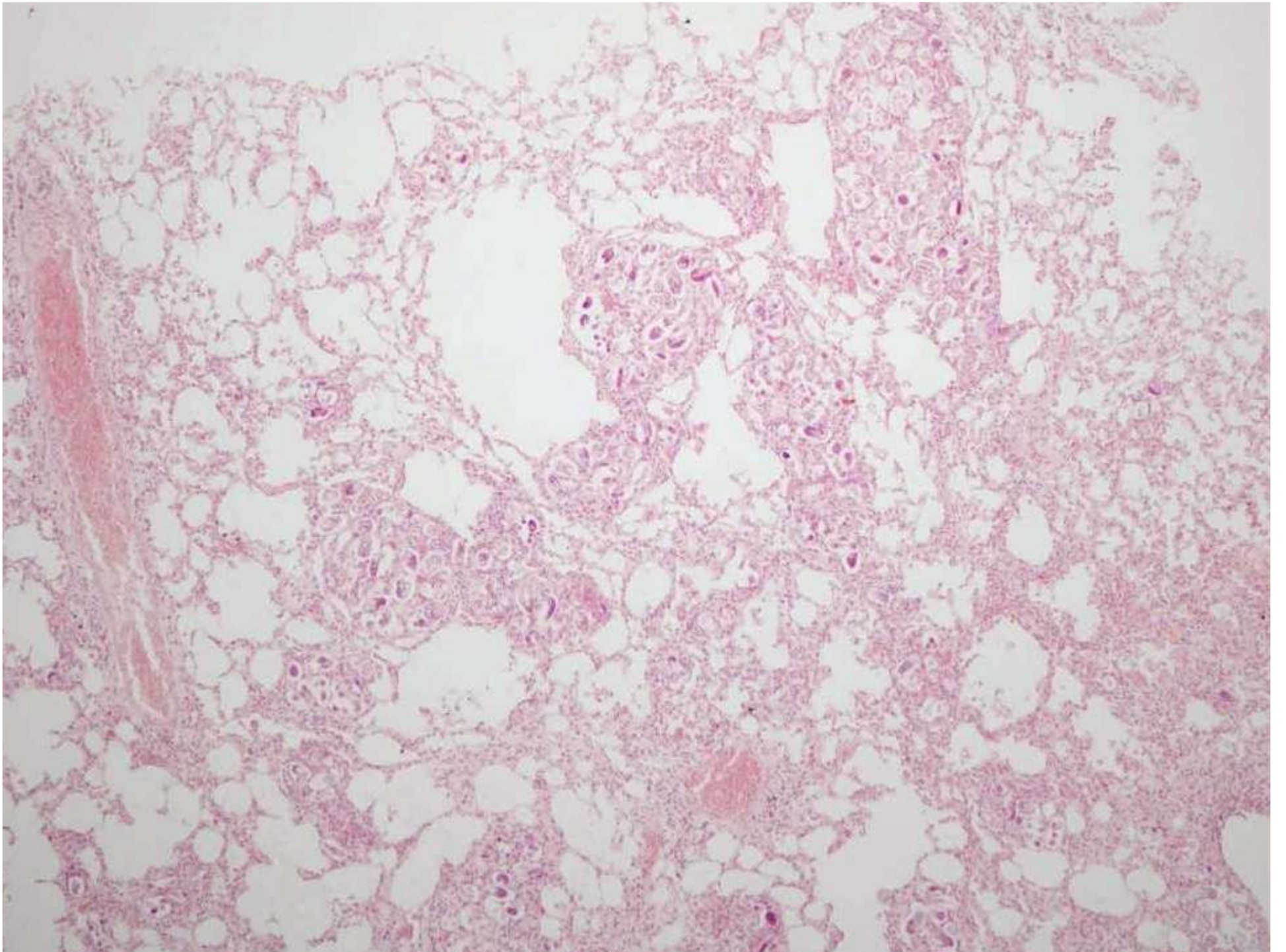


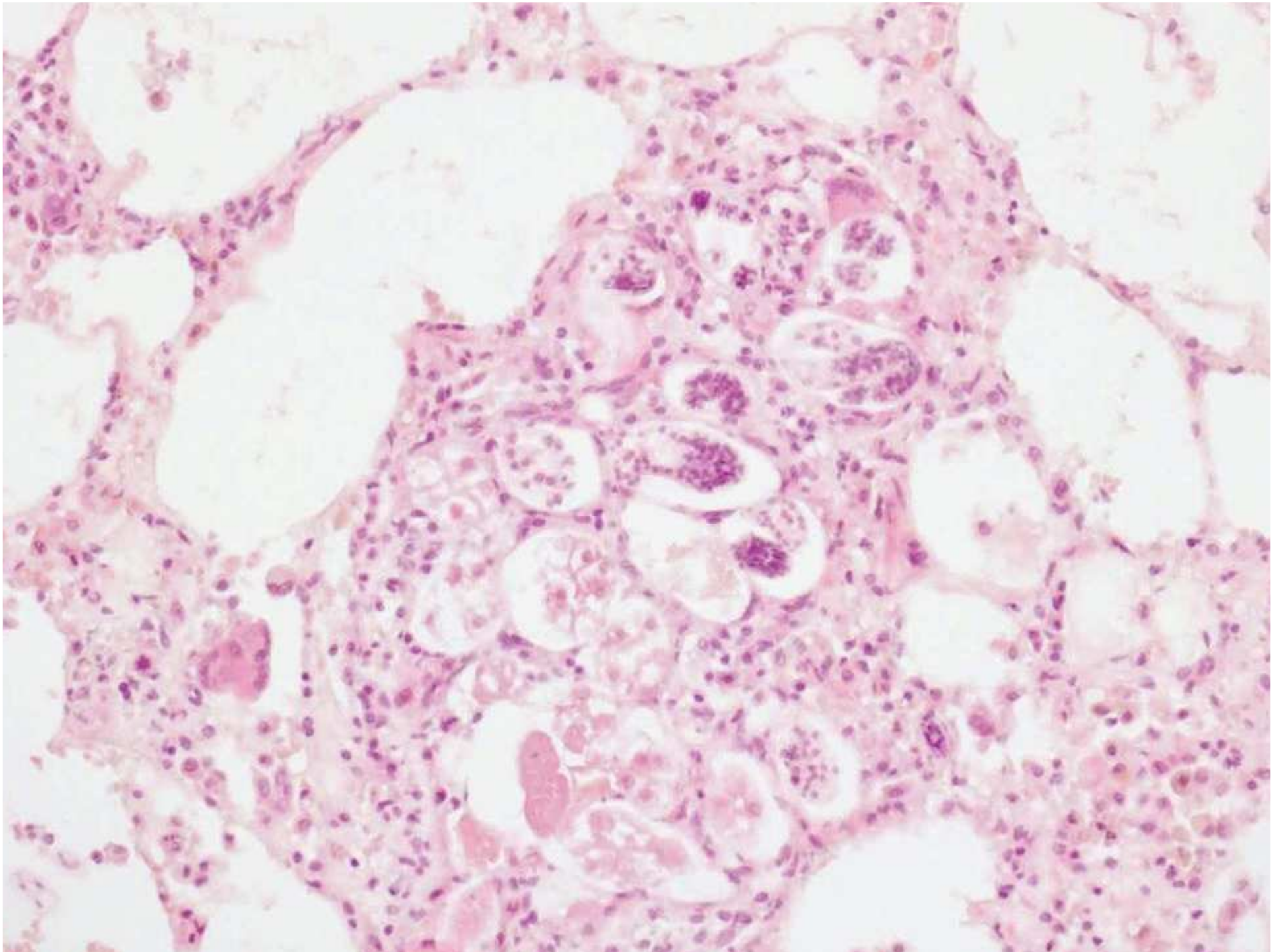


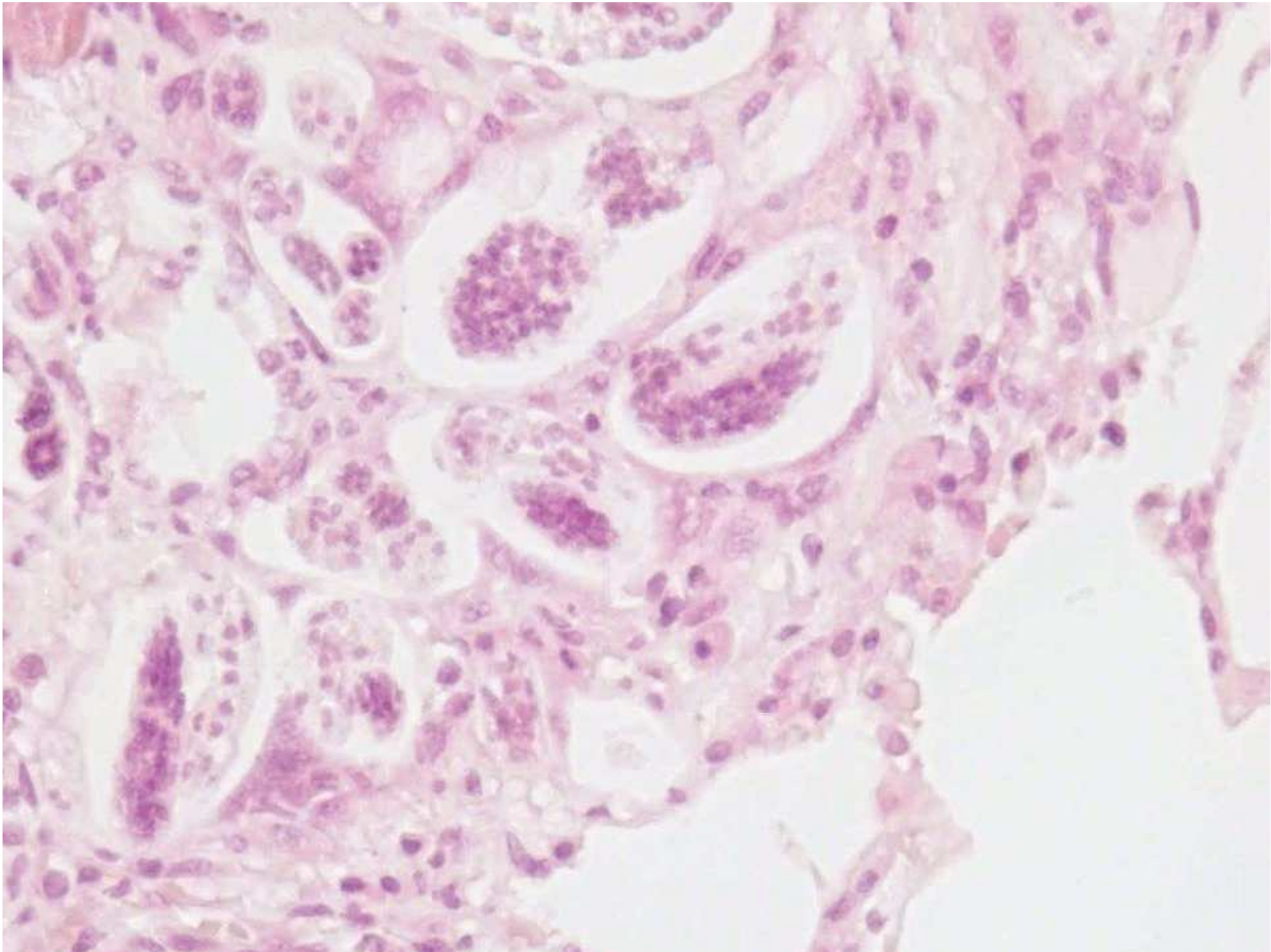


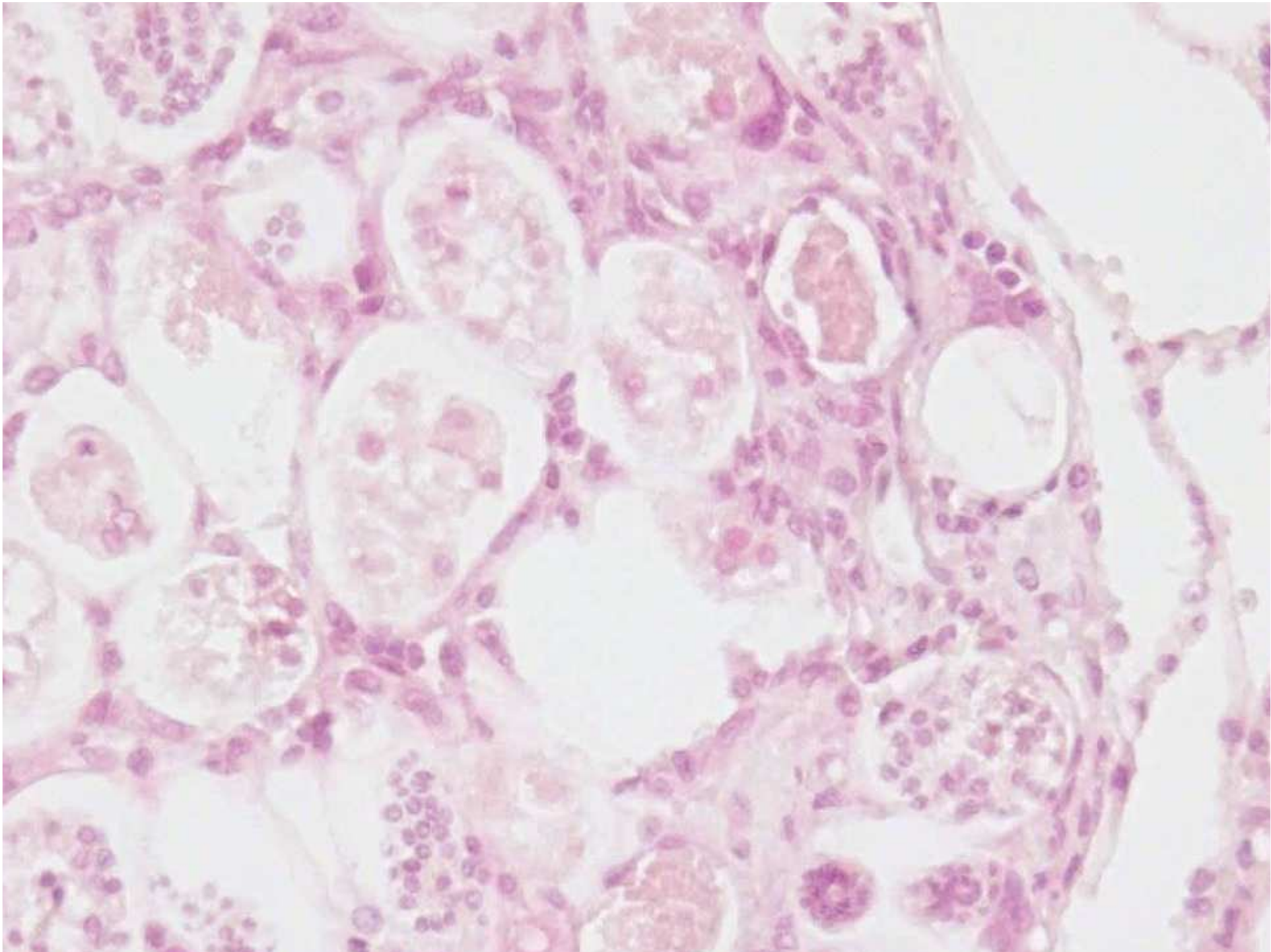


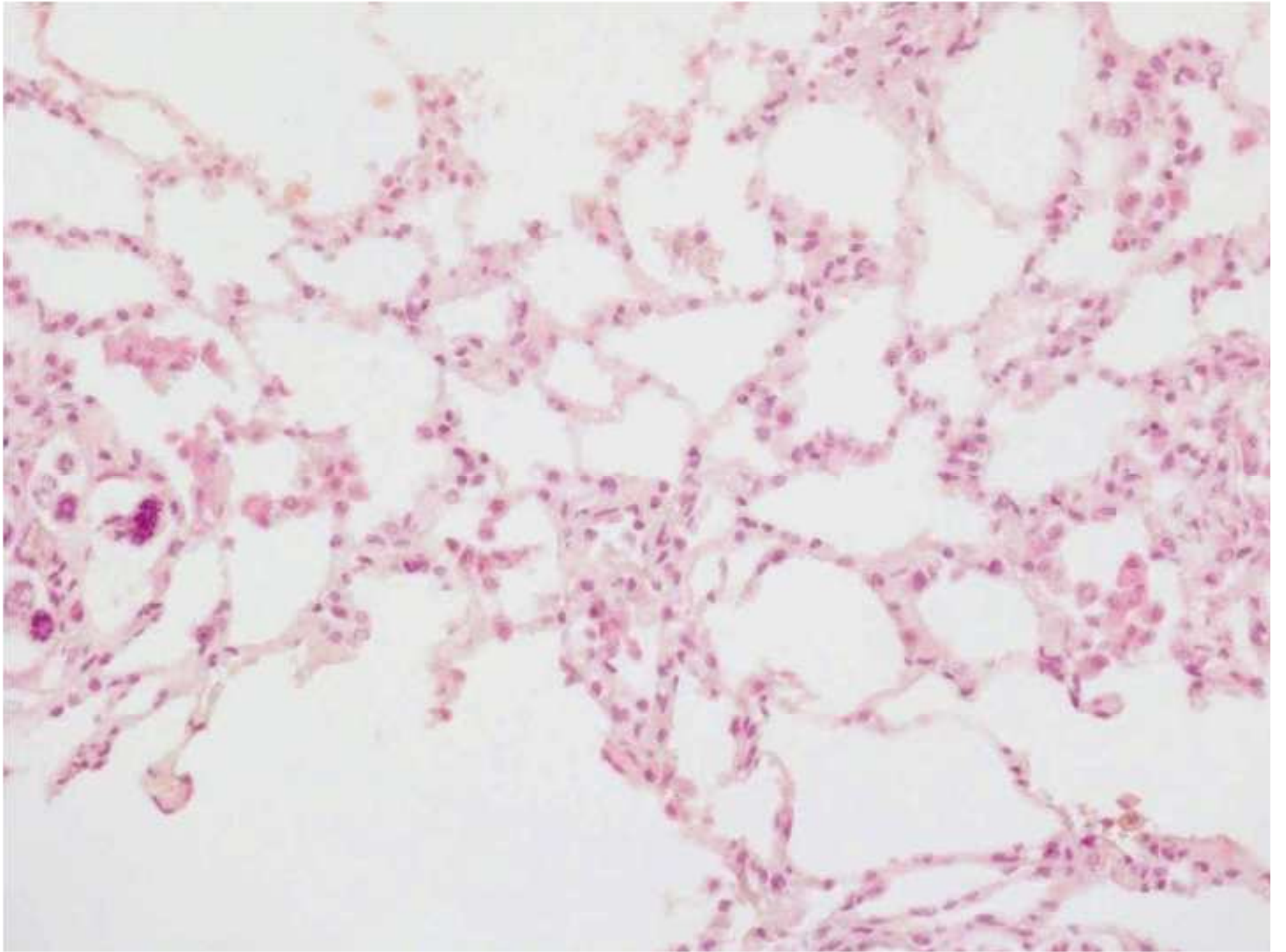


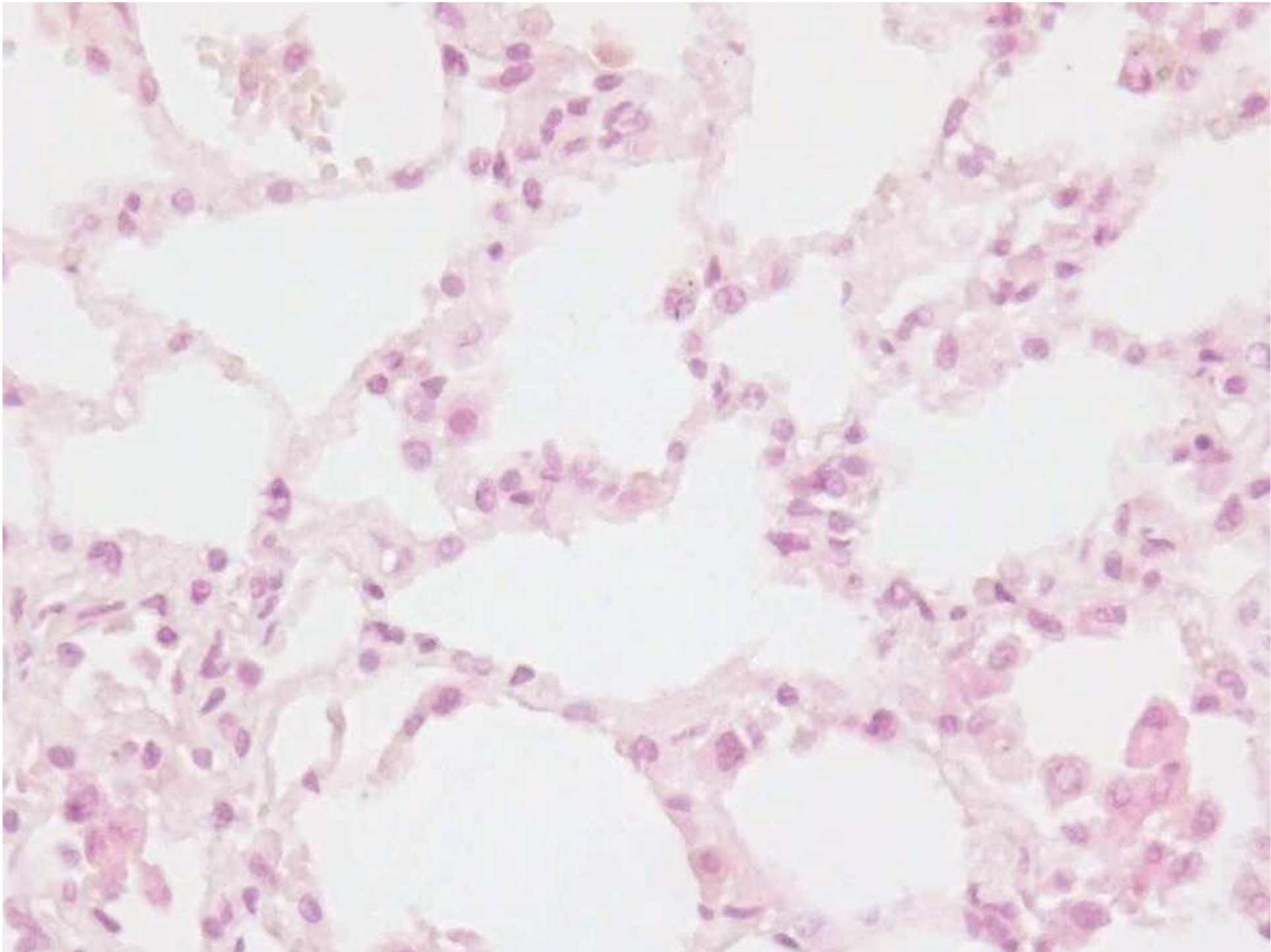












提出者の診断:

1. 多病巣～限局性で広範囲な壊死(肺梗塞)及び線虫の成虫・子虫・虫卵による多病巣性閉塞性動脈血栓症を伴う出血、多病巣性の中等度亜急性動脈内膜炎
1. Pulmonary multifocal to locally extensive necrosis (pulmonary infarcts) and hemorrhage with multifocal occlusive arterial thrombosis with variable numbers of adult nematodes, larvae and eggs and multifocal moderate subacute proliferative endoarteritis.
2. 多病巣～融合性の重度慢性肉芽腫と好酸球性肺炎、病巣内に成虫・子虫・虫卵を伴う、多病巣性で重度の亜急性肺凝固壊死(梗塞)、出血とヘモジデリン沈着を伴う
2. Multifocal to coalescing severe chronic granulomatous and eosinophilic pneumonia, with intralesional nematode adult, larvae and eggs, with multifocal severe subacute pulmonary coagulative necrosis (infarcts), hemorrhages and hemosiderosis

JPCの診断:

肺:肺炎、間質性、肉芽腫性、慢性、多病巣性、著しい。

重度の動脈壁肥厚、絨毛状動脈内膜炎、血栓症及び多数の成虫・子虫線虫と卵を伴う

Lung: Pneumonia, interstitial, granulomatous, chronic, multifocal, marked, with severe arterial hypertrophy, villar endoarteritis, thrombosis, and numerous nematode adults, larvae and eggs.

JPC 2011-17-2

猫の肺(心臓から*Dirofilaria immitis*を分離)



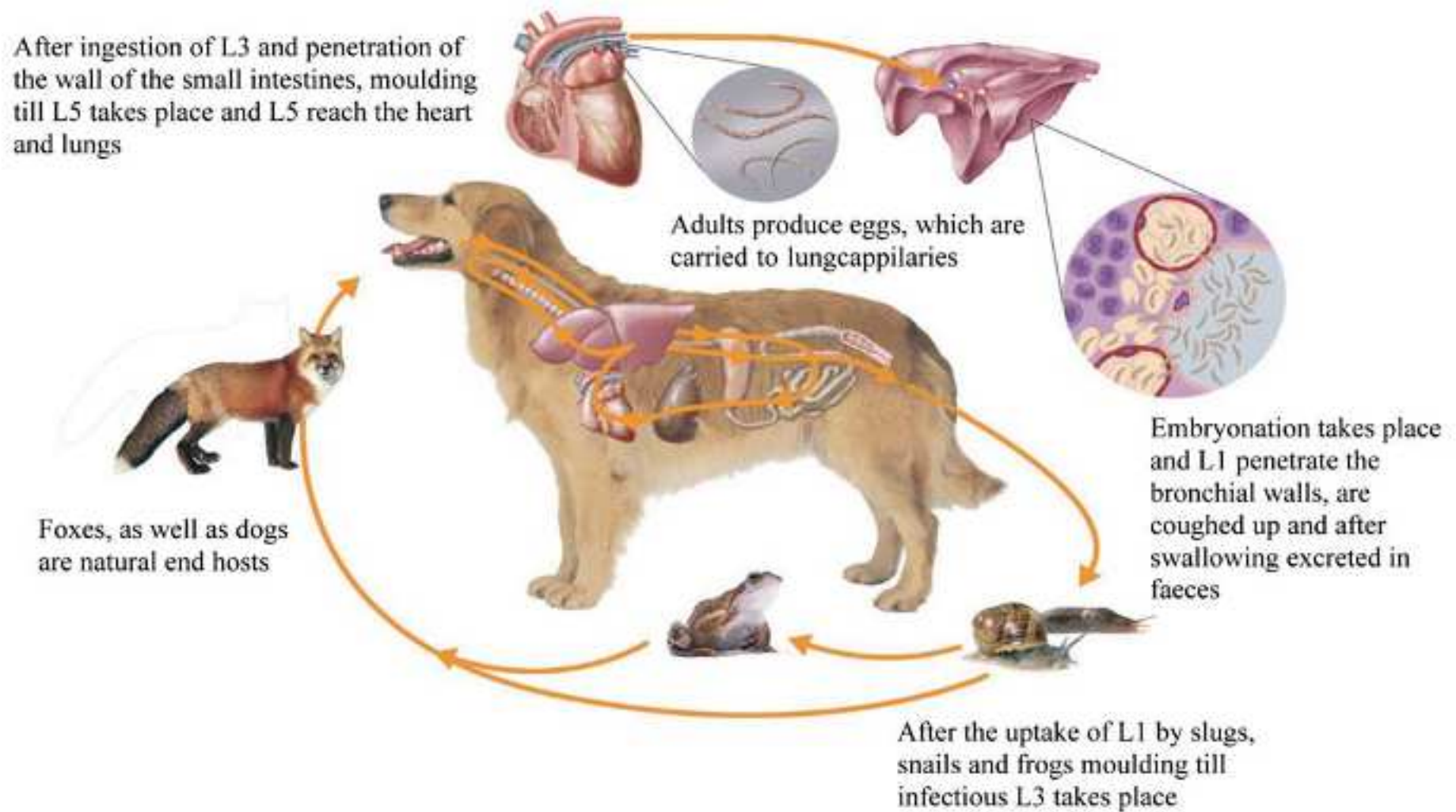
JPC 2011-17-2

猫の肺(心臓から*Dirofilaria immitis*を分離)



提出者のコメント

•*Angiostrongylidae vasorum* (*Angiostrongylidae* family)



疫学

- ・イタリアを含めたヨーロッパにおいて急速に広がる、新興感染症（温暖化による中間宿主と*A. vasorum*子虫の生存率の増加等）
- ・ヨーロッパ、アフリカ、南米、北米に分布

リスク要因

- ・幼齢犬で高リスク
- ・発生シーズンは1月～3月
- ・駆虫歴（過去12週間に駆虫薬を与えている場合にはリスクが低い）

症状・病変等

- ・呼吸器症状、肺病変が主
- ・その他： 前眼房への移行（迷入）によるブドウ膜炎
播種性血管内凝固症候群
（凝固不全も起こるとされ、*A. vasorum*が分泌する抗原性因子による、血管内凝固亢進及び消費性凝固障害が原因と考えられている）
血胸や腹部出血
急性神経症状（中枢神経の出血による）
*A. vasorum*肉芽腫は、脳、腎臓等、様々な組織で報告されている

診断

- ・糞便、痰、気管支肺胞洗浄液中のL(1)検出、ELISA、PCR
成虫の摘出、虫体の組織学的検査

会議コメント:

1. 本症例は*A. vasorum*の組織病理学的所見をほぼ網羅
2. 提出者のコメントは、本疾患の重要な要素について言及
3. 本症例は駆虫剤と医療技術が発達しているにも関わらず、
本疾患が新興していることについて、注意を促す